

新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討会（第3回）

【議事要旨】

1 開催日時

令和7年2月17日（月）10時00分から12時00分

2 開催場所

中央合同庁舎2号館 地下2階第1、第2、第3会議室（対面方式及びWeb方式の並行開催）

3 出席者（敬称略 五十音順）

座長 辻 裕一

委員 江藤 義晴、森 拓也（御調委員代理）、熊崎 美枝子、西 晴樹、三原 毅、山田 實

4 配布資料

資料3-1 溶接部の形状変化による検出信号の低下に関する数値解析結果

資料3-2 新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討報告書（案）

5 議事

（1）議事1

資料3-1により事務局から説明が行われた。質疑の概要は以下のとおり。

【委員】

シミュレーションではリフトオフを一定条件としているが、現地試験でも同様に一定条件を維持した試験を行う必要があるのか。

【事務局】

形状によるきずの検出感度の変化を確認するために理想的な環境を想定してシミュレーションで確認したものであり、現地試験において同様の走査を求めるものではない。ただ、試験面とプローブでは隙間の無いように走査することは求められる。

（2）議事2

資料3-2により事務局から説明が行われた。質疑の概要は以下のとおり。

【委員】

今後、技術進展によるプローブ等の性能向上により、報告書で定めている基準きずより細かいきずも検出するように変更されるか。

【事務局】

基準きずは現行基準相当であるので、変更することはないと考えられる。

【委員】

ECTは表面のきずを検出することに長けているため、深さより表面の長さを重視したほうがよい。

【事務局】

承知した。

【オブザーバー】

コーティングの厚さの確認について、抜き取りによる測定でよいのか。

【事務局】

フェーズドアレイによる溶接部検査に関する報告書に測定点数の他、刷毛塗り部位で厚くなるなどの記述があるため、参考とすること。

【委員】

ECTの自動化及びAIによる評価に向け、各事業所で行った試験データの情報を、今後収集していく試みは考えられるのか。

【事務局】

ECTの適用が進められていく中で、必要に応じて検討することは想定される。

【委員】

測定したデータの標準偏差が記載されていない。

【事務局】

今回の試験では、繰り返し測定したデータではないため、標準偏差を記載していない。ただ、実際の試験においては、標準偏差を加味した探傷感度及び検出レベルの設定を考慮する必要がある。

以上